

令和6年8月2日

学校関係者評価委員会 議事録

- 【委員長・株式会社オンサイト・代表取締役 渡邊】
- 【株式会社 EAM・代表取締役 小野寺】
- 【岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授・布川】
- 【株式会社東北共立・代表取締役 岸浪】
- 【株式会社メディア PR 代表取締役・金塚】
- 【定禅寺 SJF 教会代表理事 武藤】
- 【株式会社 BB グラフィックス・代表取締役 播磨】
- 【本町新光町内会 会長・落合】
- 【卒業生・株式会社エドワードアンドカンパニー・執行役員 川北】

事務局

- 【菅原学園法人本部長 菅原淳】
- 【専門学校デジタルアーツ仙台・校長 菅原崇博】
- 【専門学校デジタルアーツ仙台・副校長 井村】
- 【専門学校デジタルアーツ仙台・教務課長 飛田】
- 【専門学校デジタルアーツ仙台・学生課長 鈴木】
- 【専門学校デジタルアーツ仙台・入学相談課長 石田】
- 【専門学校デジタルアーツ仙台・主任 深谷】

○開会挨拶

- 【校長 菅原崇博】

○学校評価委員会紹介

事務局・学校評価委員、各委員の紹介

○企業連携状況に関する説明

- 【副校長 井村】

ミュージックスタッフ科では東北共立さんにインターンシップや授業での講師派遣、就職でもお世話になっている。SNS 関連としてエドワードのアガツマさんに来校いただき、SNS の講習会を行ってもらっている。

声優アーティスト科では渡辺さんの会社にお世話になり短編映画での演技指導を受けたりしている。小野寺さんの会社ではライブハウスを使用させていただき歌唱指導を受けている。また地域貢献として青

葉区民祭り、本町夏祭り、白石市の鬼小路祭りの主要キャストで参加している。

イラスト・マンガアニメ科では石巻の石ノ森漫萬館で漫画講座を実施、亘理町と連携し歴史ビデオの作成にも携わっている。

デザイン科ではDateFMさんと企業連携でグッズのデザインを行なっている。

○自己評価に関する討議、意見交換

進行：学校評価委員・委員長 渡邊（株式会社オンサイト 代表取締役）

（１）教育理念・目標

【副校長 井村】

教育理念については例年通り目標達成している。

（２）学校運営

【委員長・渡邊】

「h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか」が評価３なのはなぜか。

【副校長 井村】

学園システムが老朽化しており、現在、新規のシステム導入を検討している。

ネットワークに関しても去年よりはだいぶ改善されたが、場所や時間帯によって不調な時がある。

【校長 菅原崇博】

お盆明けのタイミングでサーバー学園全体のサーバーの入れ替えを実施するので今後はセキュリティ面、通信速度などの安定が期待できる。

（３）教育活動

【委員長・渡邊】

「l. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか」「n. 職員の能力開発のための研修が行われているか」の２項目が評価３なのはこういった理由によるものか。

【教務課長 飛田】

「l. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか」について今年度は新たに教員２名と助手二２名を採用した。今後も実技経験を積んだ卒業生を中心に教員育成に取り組んでいきたい。

「n. 職員の能力開発のための研修が行われているか」については、研修会も実施していかなくてはな

らないと感じている。メンタルについての知識やコーチングなど、学生とのコミュニケーションの取り方について、我々教員が知識を持っていかなければならない。学科の技術向上のための研修や除退率軽減のための研修など、幅広くやっていきたいと思う。

(4) 学習成果

【委員長・渡邊】

「b. 資格取得率の向上が図られているか」のみ評価4で他は評価3になっているのはなぜか。

【学生課長 鈴木】

学校として退学率は5%以内が目標。精神的に弱い学生や通信制高校の卒業生など、大勢の学生と一つの教室で机を椅子並べて授業を受けるのが苦手な学生も出てきている。そういう学生に向けて、昨年度までのカウンセリングにプラスして、今年度からは特別教室を設けた。課題にて単位認定を行なっていく。一人一人をより手厚くフォローし、一人でも途中で辞める学生が出ないように取り組んでいる。

【副校長 井村】

カウンセリングを受けている学生は現在7名。どうしてもクリエイティブ系、エンタメ系は精神的に弱い学生が多く入ってきている。

(5) 学生支援

【委員長・渡邊】

「i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」の項目が評価3から4になったのはどういった理由によるもの。

【学生課長 鈴木】

「i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」については、新校舎建設中で来年の4月から授業が始まる。それに伴い新しい設備が揃うので入学生にとっては非常にメリットがある。逆に課題としてはここに残る学科と差がつかないようにしていった。

【委員長・渡邊】

現在校舎はどう整備していくのか。

【副校長 井村】

助成を受けて国際情報ビジネス科、デザイン科が使用するパソコンは今年度中にリニューアルされる。

(6) 教育環境

【委員長・渡邊】

全ての評価が3になっているのは何故か。

【副校長 井村】

今年になってだいぶ改善されている。

防災について水は充分確保しているが、非常食は充分にはない状況なので今後準備していきたい。

【本町新光町内会 会長・落合】

神社の倉庫に非常食の備蓄があるが、足りてはいない。必要な場合は助け合っていきたい。

【株式会社東北共立・代表取締役 岸浪】

会社には水が多少あるぐらい。ヘルメットとかは用意してある。食料管理に関しては用意していない。

【教務課長 飛田】

予算化して学生分を揃え、何もなければ卒業時に配布してはどうか。

【副校長 井村】

震災直後は備蓄として用意したが、賞味期限切れで現在はほぼない。

(7) 学生の受入れ募集

【委員長・渡邊】

全ての評価が4になっているのは何故か。

【入学相談課長 石田】

ガイダンス、オープンキャンパスは丁寧に対応してきてミスマッチはないと感じている。

入学後に説明と違ったという理由での退学はなかったと感じていう。

【委員長・渡邊】

全学科定員に達しているか。

【入学相談課長 石田】

定員に達していない科も多くある。分野の競合校もあるので、もっと SNS を使って広報していきたい。

【委員長・渡邊】

他の学校だとオープンキャンパス来た子には5回6回電話をかけて、ローンのご紹介までするところもあると聞く。

【校長 菅原崇博】

少子化の中でももちろん教育内容とか親御さんに対しても納得の大切だが、まず高校生の子たちがこの校舎に通いたいと思うような設備が非常に大事だなというふうに思っている。そういった意味でも設備の更新は予算取りしながら、今後進めていきたい。

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

【委員長・渡邊】

全ての評価が4になっているのは何故か。

【法人本部長 菅原淳】

財務に関しては学園のホームページで情報公開を行なっている。昨年度の決算については、黒字を計上できた。就学支援等の補助金を受けるために赤字では受けられない。

今後18歳人口が減っていく中で収益基盤を確保して盤石な体制で運営して行きたい。

(10) 社会貢献・地域貢献掲示

【委員長・渡邊】

全ての評価が4になっているのは何故か。

【副校長 井村】

東北大学と連携し、シニア層に向けた講習会を開催し、地域貢献にも努めている。

コロナが明けて開けていろんな活動ができるようになった。高校の軽音楽大会やとっておきの音楽祭、定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど、様々な支援ができるようになった。

あとは地域に対する公開講座、教育訓練の受託等を行なっている。東北大学と共同で仙台市助成事業として、仙台市地域づくりパートナープロジェクトということで、シニア教育も行なっている。

【委員長・渡邊】

ライブシアターの耐震はどうなったか。

【副校長 井村】

校舎の耐震工事も終わりましたので、大丈夫だと思うが、老朽化というところもあるので、満杯に入れるというよりは、制限しながら運用して行きたい。

【本町新光町内会 会長・落合】

本町夏祭りでは毎年お世話になっている。今年もよろしく願います。

(11) 国際交流

【教務課長 飛田】

昨年度は卒業生 18 名、新入生が 24 名。卒業生の 18 名中 15 名の進路が決まっている。退学者も少なく、学費の納付遅れる学生はいたがしっかりと対応できた。今年度は 74 名の新入生を迎え、出席率も良好、日本語能力も高い学生もいるので質を向上させていきたい。

ちょっと気になるのは、今まではネパールとベトナム中心だったが、ベトナムからの留学生が少なくなってきた。今年の一年生に関しては、モンゴル、スリランカ、バングラディッシュ、パキスタン、その辺の国々から来ている。今後いろんな国から来る可能性があるがあるので、やはり学生の質をしっかりと見極めて入学生を確保していきたい。

【副校長 井村】

来年の入学生から国際情報ビジネス科に関しましては、総合ビジネス公務員専門学校への入学となります。今の一年生に関しては、卒業するまではデジタルアート仙台在籍。

【委員長・渡邊】

日本人学生との交流の場はあるのか。

【副校長 井村】

今までは学園祭で交流していた。

(12) 意見交換

【副校長 井村】

学園として SNS に力を入れている。色々と教えていただきながらやっているってような状況です。

【株式会社エドワードアンドカンパニー・執行役員 川北】

大勢で授業を受けるのが難しい学生が増えてきたということで、その一人に対して一人先生がついている状況なのか。

【副校長 井村】

現状は手の空いている教員が定期的に見に行っている。まずは学校に来る習慣を作っていきたい。通信高校出身の学生も増えているので、オンデマンドでの対応も考えている。できるだけ多くの学生を卒業させていきたい。

【入学相談課長 石田】

怒られ慣れていない学生が多いと感じている。就職活動等でメンタルがやられ、カウンセリングが必要な学生も出てきている。

【株式会社 BB グラフィックス・代表取締役 播磨】

受け答えができない学生が2名いる。共同制作の授業は厳しいので、この学生は個人制作に切り替えている対応している。

【定禅寺 SJF 教会代表理事 武藤】

昔の学生と質が変わったと感じている。昔はよくバクレ学生が多かった。今は一人でポツンとしていたり、コミュニケーションが取りにくい学生が増えた。

【副校長 井村】

なるべく多くの学生も入学・卒業させられるように個別対応していきたい。

【校長 菅原崇博】

保護者も同意の上で、就職を目指すのではなく学校に通うことが目的の学生もいる。AO入試で面談を実施しているが、学校生活が厳しい学生には不合格を出している。

○閉会の挨拶

事務局【菅原学園法人本部長 菅原淳】